

需要見極め最適サービス提供

■平野ロジスティクス関西支店

平野ロジスティクス関西支店は、関西空港内と対岸のりんくう国際物流センター内の施設を両輪に事業展開している。医薬品専用車両も充実しているほか、経験に裏付けられた医薬品取り扱いノウハウも特色だ。特に関西圏でも需要が高い医薬品輸送を含め、高品質サービス提供に力を注いでいる。空港間の保税転送(OLT)サービスも堅調だ。田中基康次長は「物流需要は非常に高い水準にある。一方で、新型コロナ禍が収束に向かい、旅客便ネットワークが回復すれば、これまでと違った物流需要が発生することも考えられる」と言及。「需要動向を見極めながら、高品質サービスを安定的に提供していく」と強調する。

関西支店はりんくう国際物流センターにオフィスを構えている。かねて新たな物流拠点展開を検討する中で、今年に入って同センター内に倉庫(2スパン)を確保。保税蔵置場の許可も取得して2月に業務を開始した。シブスパーツを中心に取り扱いしており、顧客指示に基づき保税転送・国内輸送を手掛けるなど、サード・パーティ・ロジスティクス(3PL)事業を手掛けている。

関西空港内では第2国際貨物代理店ビルで保税倉庫を運営しており、昨年1月に増床して計2スパン体制とした。主にフォワーダーの輸出入貨物を取り扱っている。輸出貨物に関しては関西空港の航空会社上屋への搬入、他空港への転送サービスなどを提供。輸入貨物に関しては航空会社からの貨物引き取りやダメージチェック、ブレイクダウン、検品、配送などを手掛けている。貨物の一時保管機能を提供する形で需要も高いという。

オリジナル・トレーラーを含む充実



医薬品専用車両も充実している

した車両によるネットワーク、医薬品輸送にも対応した高度な品質、充実した物流拠点といった要素を組み合わせ、多様化する顧客ニーズに対応している。平野ロジスティクスは西日本初のAEO特定保税運送者であることに裏付けられた高度なセキュリティも特色だ。さらに国際航空運送協会(IATA)の医薬品輸送品質認証CEIVファーマ取得に向けて取り組んできた。関西空港のコミュニティ第二弾に参画して準備を進めてきた結果、5月24日付けでCEIVファーマ認証を取

得した。

田中次長は「品質を高めるためには、何よりも人材教育・育成が重要だ。高スペックを備えた車両の導入というハード面、人材育成というソフト面の双方を充実させることで、強みを発揮していきたい」と話す。トラックドライバーの「2024年問題」についても、求められる基準を前倒しに満たすことができる労務管理体制を確保している。トレーラーを活用した中継輸送も取り入れながら、労務環境のさらなる向上にも余念がない。

羽田ーパリを9月本格再開

■エールフランス航空

エールフランス航空は9月、新型コロナウイルス禍で運休が続いていた羽田ーパリ線の運航を本格的に再開する。コロナ下で、これまでは需要に応じて都度運航する格好だったが、同

月以降は週3便で運航する。再開初便はパリ発9月7日、羽田発翌8日(いずれも現地時間)。投入機材はB787-9型機。

羽田ーパリ線の運航計画は次の通

り(6月9日時点)。

AF279便(月・木・土)=羽田発10時25分、パリ着18時10分(22年9月8日~10月29日)▷AF272便(水・金・日)=パリ発12時15分、羽田着翌日8時30分(22年9月7日~10月28日)